

第1編 基本構想

第1章 総合計画策定について

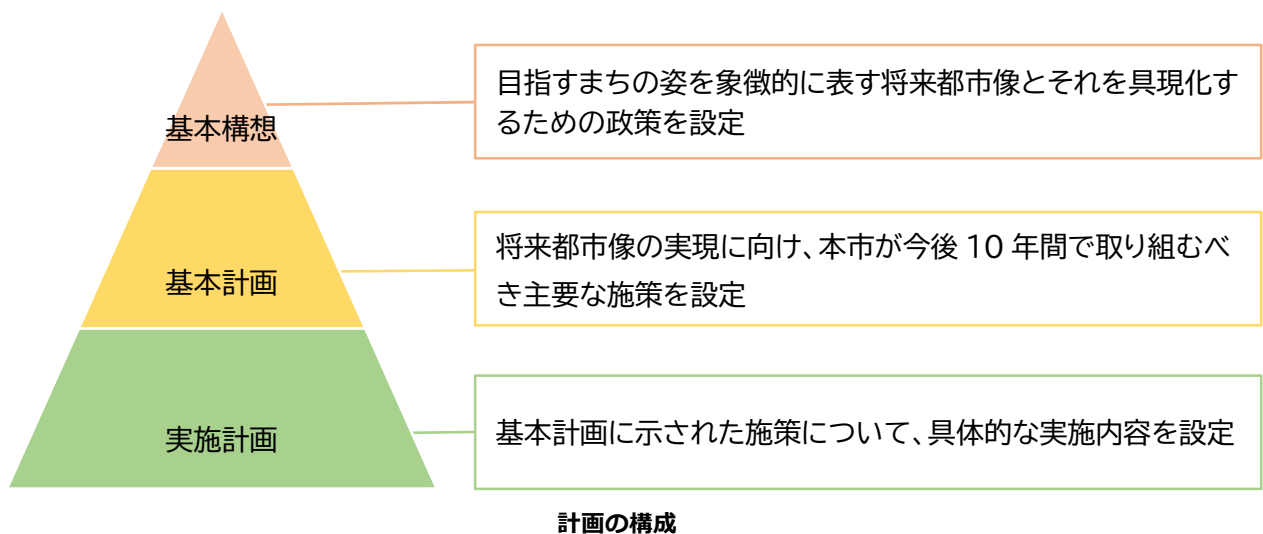
1-1 計画策定の目的と役割

中津川市総合計画は、2027年度から2036年度までの10年間に於いて、中津川市のまちづくりの指針となるものです。長期展望に立って、中津川市の将来都市像と、その実現に向けた道筋を明らかにします。

変化が激しく先が見通せない社会環境の中で、市民が幸せに暮らすことができる中津川市を目指し、計画的にまちづくりを進めていくために本計画を策定します。

1-2 計画の構成と期間

総合計画は、3層の構成とし、10年間を計画期間とします。



計画期間	令和（年度）	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	西暦	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
	基本構想	10年間									
	基本計画	前期5年間					後期5年間				
	実施計画	前期5年間					後期5年間				

計画の期間

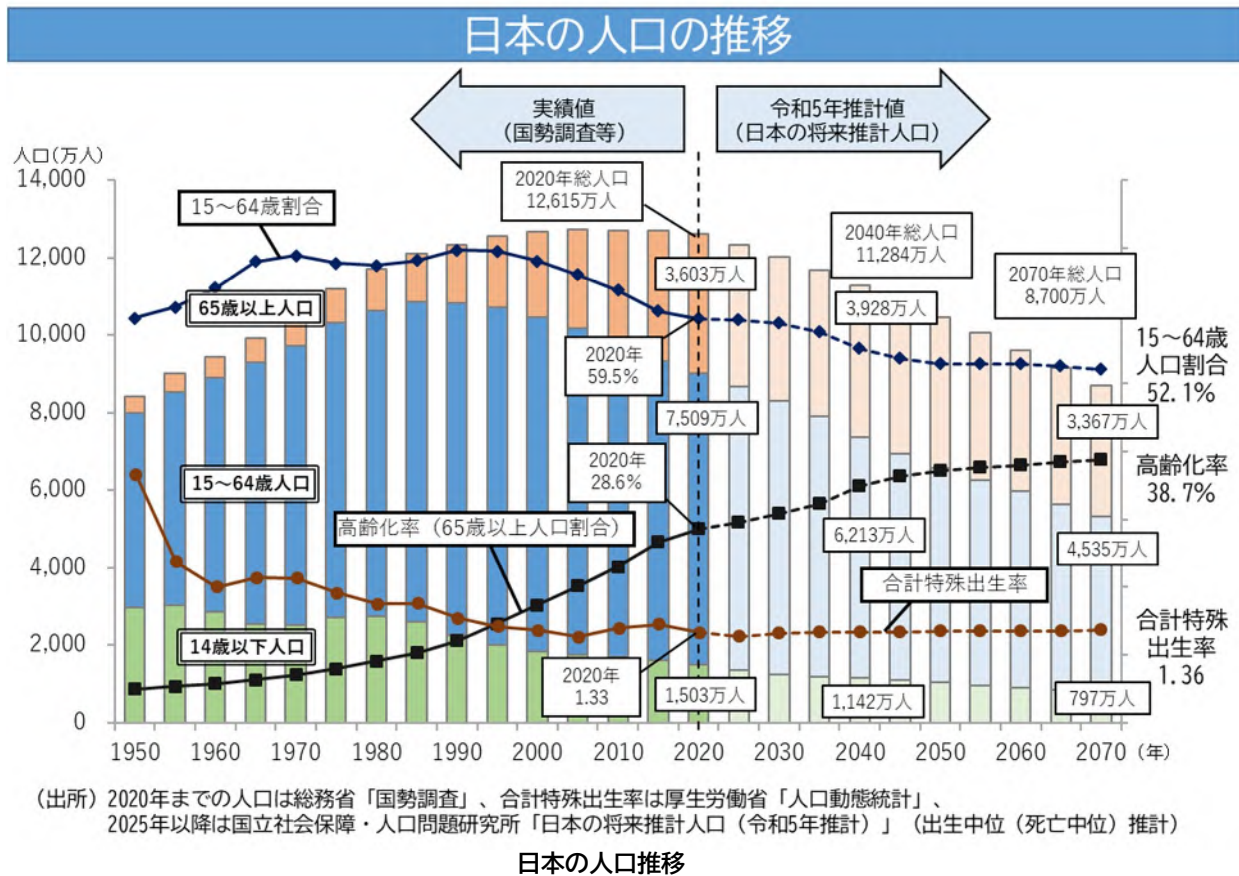
第2章 社会情勢と中津川市の現状

2-1 時代の潮流

(1)人口減少・高齢化

◆続く人口減少と人手不足

日本の人口は2008年をピークに減少に転じ、2070年には9,000万人を割り込むと推計されています。人口減少に伴い、日常生活に不可欠な社会基盤の維持が困難な地域が顕在化、深刻化していくことが想定されます。また、人口減少の進行と合わさって日本の高齢化は今後も急速に進み、生産年齢人口の減少が予測されます。



(2)持続可能なまちづくりに向けた取り組みの推進

◆SDGs への取り組み

2015年の国連サミットでは「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すため、「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられました。地球規模の環境問題や社会問題が深刻化し、あらゆるものの変化が激しく予測することが困難な時代にあっては、人類の生存と繁栄にとって、持続可能な社会の実現が不可欠です。



◆デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

急速に進展するデジタル技術を背景に、AI の活用などに代表される DX の推進による「どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」、「暮らしに豊かさをもたらす高度情報社会」の実現などが推進されています。

(3)頻発化・激甚化する災害などへの対応

◆地球温暖化に伴う災害リスクの増大と対策強化

近年、地球温暖化に伴う気候変動による風水害や土砂災害が頻発化、激甚化する中、人々の暮らしの安全・安心の確保が重要となっています。災害時には互いに助け合える体制づくりも含め、ハードとソフトが一体となった自助・共助・公助による総合的な災害対策の確立が求められます。

左：「平成 30 年 7 月豪雨」による被害状況（岡山県倉敷市真備町）
右：「令和元年東日本台風」による被害状況（長野県長野市）
出典：国土交通白書



地球温暖化の影響が評価された異常気象による気象災害

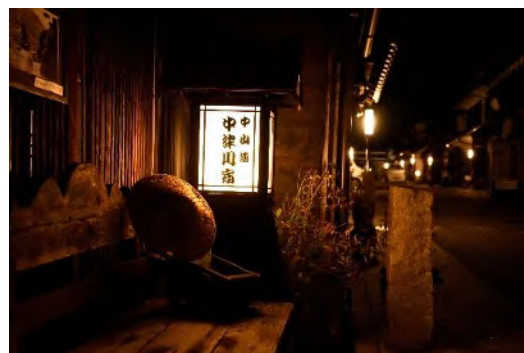
(4)多文化共生社会

◆多様性の尊重

多様性とは、人種や性別にとどまらず、背景や経験、視点を包含する広範なものです。今日においては、異なる文化、信仰、人種、性別、性的指向、年齢、身体的能力、経済的背景など、人々が持つさまざまな側面を認識し、尊重することが求められています。多様性を尊重することは、社会や組織で豊かなアイデアや革新をもたらし、人と人のつながりを深めることにつながり、特に人々の移動や交流の少ない地方都市では重要であると考えられます。

◆インバウンド観光をめぐる動向

2021 年の訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対前年比 94.0%減の 24.6 万人となりましたが、2023 年の水際措置撤廃以降、右肩上がり急回復を遂げています。今後、人口減少が加速する日本の地域経済にとって、インバウンドの増加は地域のにぎわいを取り戻すといった効果が期待できます。このため、観光振興施策を通し、持続可能な魅力ある地域を実現させることが求められています。



2-2 中津川市の姿

(1)中津川市の概要

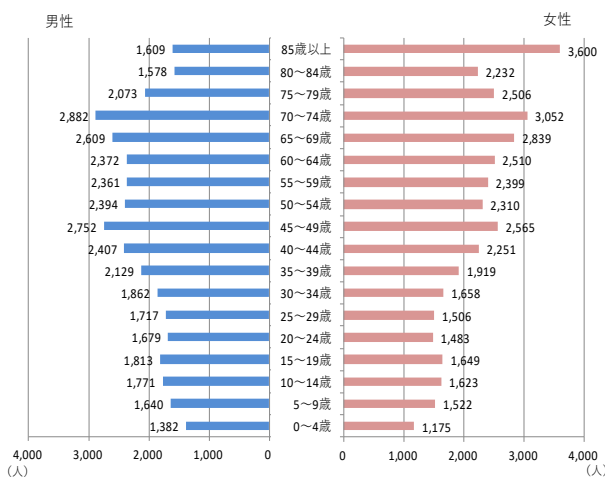
中津川市は、日本列島のほぼ中央にあり、森林と清流とに育まれた自然豊かな市です。市の面積は676.45 km²で、総面積の約80%を森林が占めています。1952年4月に市制が施行されて以来、周辺町村との合併をくり返し、2005年2月に現在の中津川市が誕生しました。13の地区から構成されており、豊かな自然、歴史、文化など、それぞれ異なる特性を持っています。

本市は、江戸時代より中山道の宿場町として栄え、交通網により都市圏からのアクセスに恵まれたまちであり、さらに、リニア中央新幹線が開業すると、都市圏と直結し、全国各地と短時間で往来できるようになります。これは単に交通が便利になるだけでなく、暮らしの幅を広げるとともに、産業の活性化に大きく寄与するものと考えられます。千載一遇のチャンスであるリニア開業をまちづくりに生かし、その効果を県全域はもとより広域的な周辺地域に行きわたらせる必要があります。

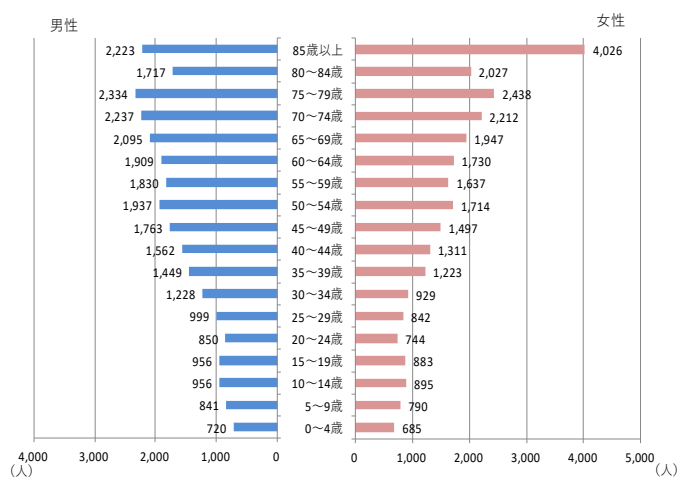
(2)人口推計

2020年に実施された国勢調査によると、中津川市の人口は76,570人でしたが、2023年12月に公表された国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による将来人口推計では、当市の将来人口は2035年で66,022人、2050年で55,136人になるとされています。

2020年の年齢別の人口をみると、「団塊の世代」にあたる70～74歳でほかの年代より人数が多くなっている一方、就学や就職時における市外流出の影響がある20～29歳の年代の人数は男女ともに少なくなっています。また、社人研による2050年の年齢別の将来人口推計によると、高齢者の比率が一層高くなっていくことがわかります。



中津川市年齢別人口（2020）



中津川市年齢別人口（2050）

資料：総務省「国勢調査」（2020）

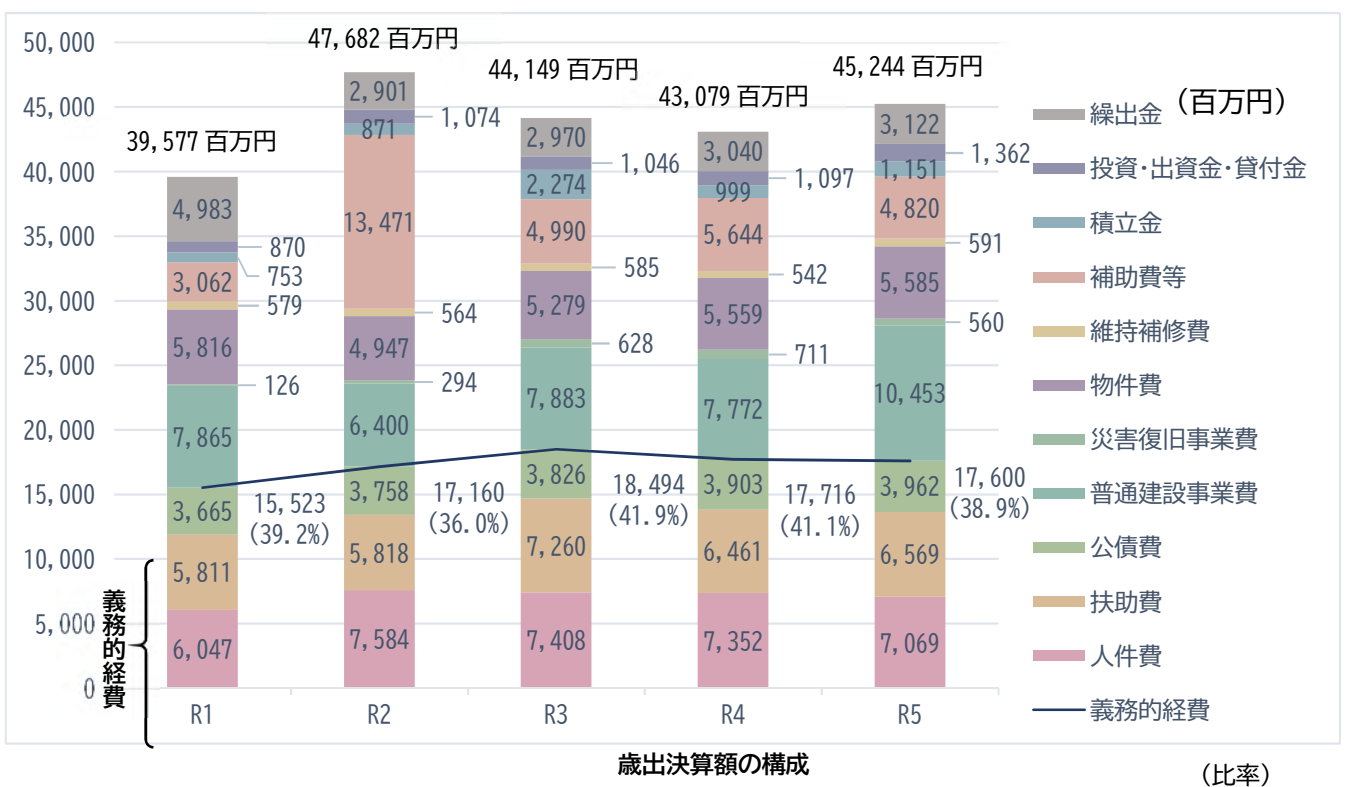
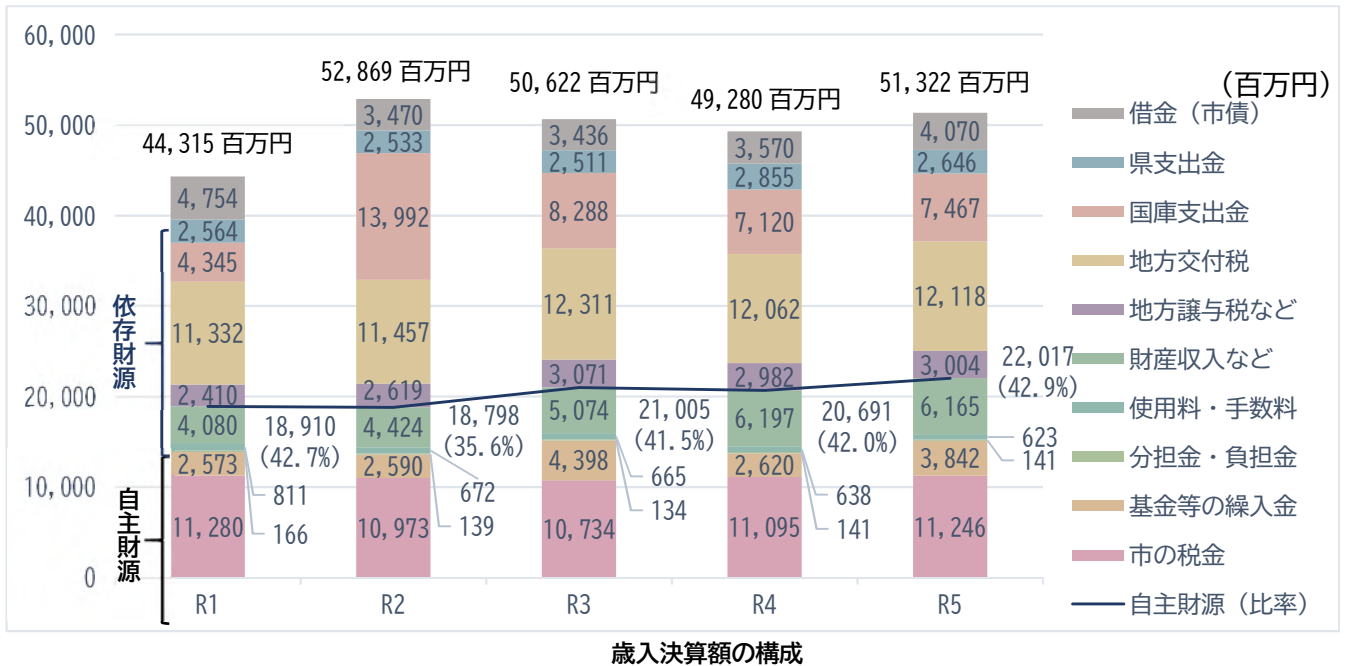
社人研「将来の地域別男女5歳階級別人口（10月1日時点の推計人口）（2023）

(3)財政状況

本市の財政規模は、近年 500 億円前後となっています。

歳入は、市税やふるさと納税などにより自主財源比率は 42%前後で推移するとともに、国・県の補助金や有利な地方債の活用などにより財源を確保しています。

歳出は、新型コロナウイルス感染症対策による臨時的な対応や物価高騰・人件費の上昇などによる経費負担の増加、リニア関連事業や教育施設の統廃合に伴う大型事業の影響などにより、450 億円前後で推移しています。



第3章 中津川市の課題・強み

3-1 市民意向調査

(1) まちづくり市民アンケート調査(一般)

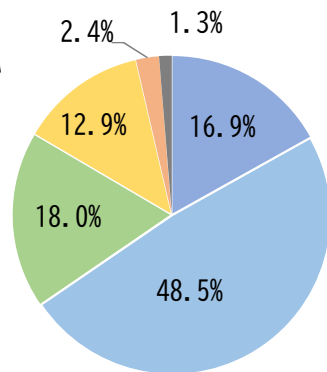
本計画の策定にあたり、市民の意見を把握するため、令和6年度にまちづくり市民アンケート調査を実施しました。

調査の概要	
対象	無作為抽出による 18 歳以上の市民 1,500 人
有効回答数	550 件（回答者の 47.6%が 60 代以上）

※同時に Web 形式調査を実施（回答者の 58.0%が 10 代）

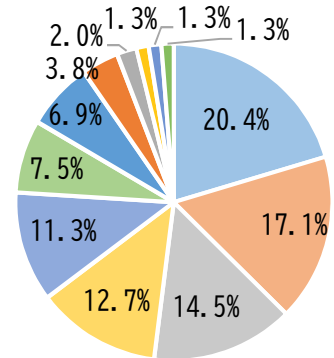
◆市の暮らしやすさ

- 暮らしやすい
- まあまあ暮らしやすい
- どちらともいえない
- あまり暮らしやすいとはいえない
- 暮らしにくい
- 無回答



◆市の将来イメージとして望ましいもの

- 健康・福祉のまち
- 安心・安全なまち
- 子育てのまち
- 自然のまち
- 便利なまち
- 無回答
- 観光のまち
- 産業のまち
- その他
- 共生のまち
- 文化・スポーツのまち
- 農林業のまち



◆リニアを活用したまちづくりで重要なこと

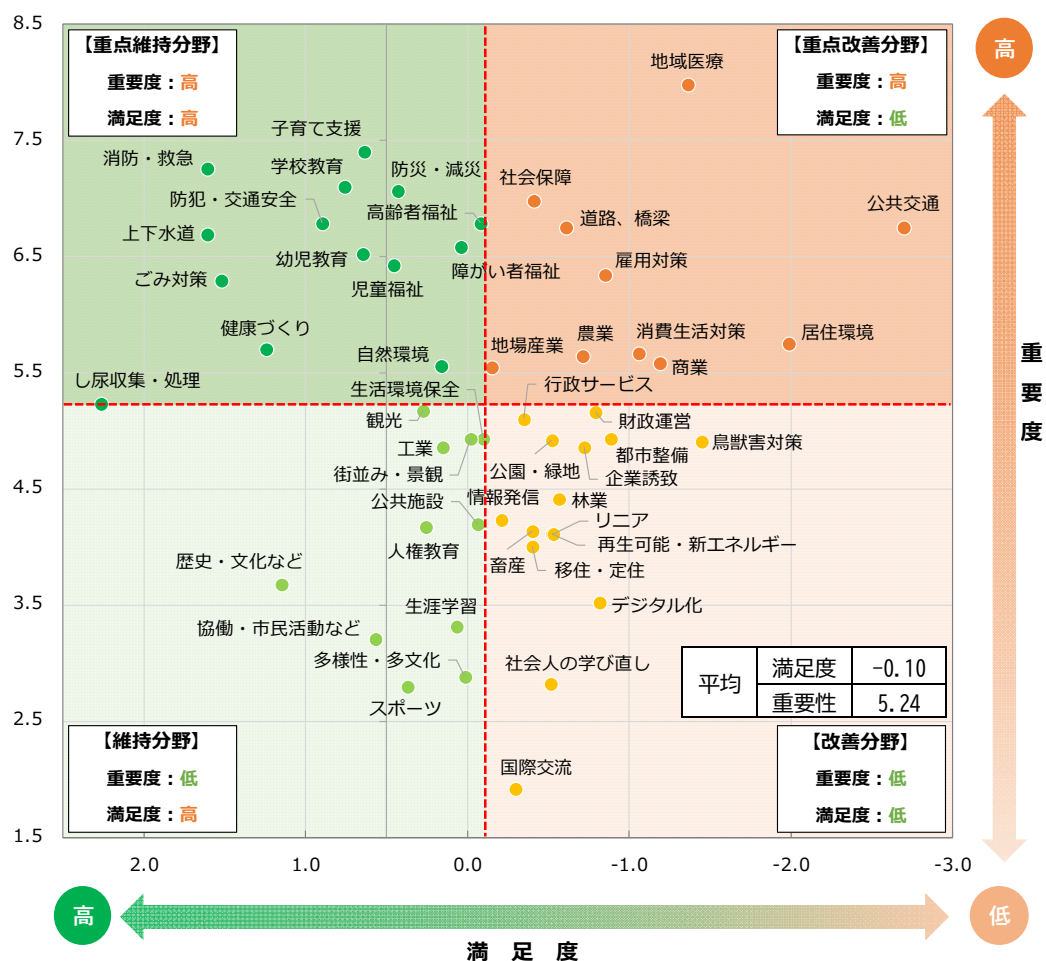
- 「若者の雇用機会の確保」「地域公共交通システムの利便性向上」「中心市街地（中津川駅周辺）の活性化」が上位3項目

（Web 調査では、「リニア駅周辺の商業施設等の整備」「リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備」「中心市街地の活性化」が上位）

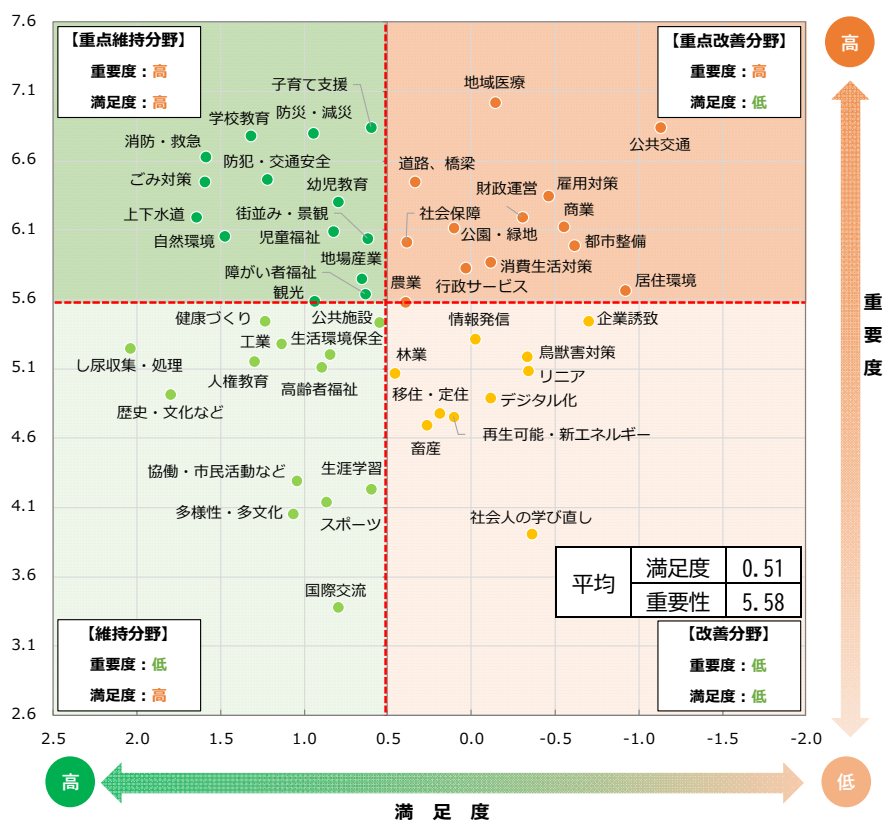
◆まちの発展や市民の暮らしを豊かにするための意見や提案、夢（自由意見を抜粋）

- ・買い物・遊べる場所をもっと増やして若者が楽しめる街づくりをしてほしい。
- ・子育て支援の充実に積極的に取り組んでほしい。
- ・移住、定住希望者には助成制度を設けて、若い世代の移住者を増やしてほしい。
- ・医療施設、特に小児科や婦人科をもっと増やしてほしい。
- ・観光資源の整備と開発を両立させ古き良き物と最先端が共存するまちづくりが必要。
- ・リニア駅～中心部と農村地域、それぞれの良さを積極的にアピールしてほしい。

◆【施策の重要度・満足度】



(参考：Web 調査 回答者の 58.0%が 10 代)



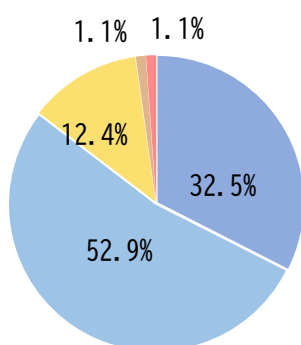
(2)まちづくり市民アンケート調査(小中学生)

幅広い意見を把握するために市内の小中学生を対象としたまちづくり市民アンケート調査を実施しました。

調査の概要	
対象	小中学生（市内の小学5年生～中学3年生）3,193人
有効回答数	1,172件

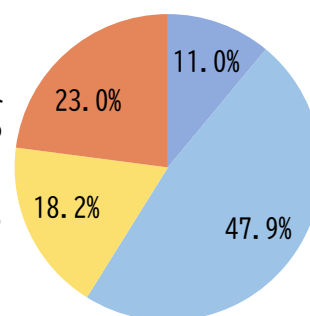
◆市への愛着

- 大好き
- まあまあ好き
- どちらともいえない
- あまり好きではない
- 好きではない



◆今後の居住意向

- ずっと住みたい
- 進学・仕事などで市外へ出ていっても、いつかはもどってきたい
- 中津川市以外のところに住みたい
- わからない



◆もし市長になったらしたいこと（自由意見を抜粋）

「住みやすいまち」「商業施設（ショッピングモール、コンビニ、映画館など）の充実」「自然を守る・活かす」といった意見が多くありました。

- ・自然がたくさんあって、交通手段も便利で、もっと産業や人が集まるよう計画を立てて、誰もが便利に生活できるまちづくり
- ・災害などの対策もしっかりして、ほかの市や県が困っていたら助けられて、全国を支えられるまちづくり
- ・「こだわる」中津川市にしたい。（「個」人個人が中津川に住む人が増えるようにするために、「駄」菓子や「和」菓子造りを行ったりして、「ル」ンルンな中津川市にする。）

◆市に住んでよかったこと（自由意見を抜粋）

- ・夏場は川遊びにたくさん出かけられること。
- ・大きな災害がないこと。
- ・意外に便利なこと。
- ・ひとまちテラスができて、たくさんの本やイベントが増えたこと。
- ・地域の人達が優しい、温かい、親切。

(3) グループインタビュー(団体)

各団体の代表者などから調査票を配布する形式でグループインタビュー調査を実施しました。

調査の概要	
対象	市に関係する各分野の団体・グループ（依頼数 146 団体）
有効回答数	56 件

◆市の強み、弱み（抜粋）

強み	弱み
・ 森林・清流などの自然資源が豊か ・ 特産物の栗（栗スイーツ） ・ 観光資源が多い（馬籠宿、苗木城、中山道、滝など） ・ 歴史文化が豊か ・ 伝統芸能が息づいている ・ 大規模な製造業が集積している ・ 市内で働く場がある ・ リニアや高速道路建設による、今後大きく成長できるポテンシャル ・ 災害に強く、近年大きな被害がない	・ 若年層の流出と高齢化により地域の活力が低下している ・ 行きたくなる商業施設が少ない ・ 公共交通機関（バス、タクシー）が充実していない ・ 新規分野・新規開拓への取組が停滞気味 ・ 将来ビジョンや取組が住民に伝わっていない ・ 強みを生かし切れていない ・ 市としての一体感がない

◆魅力的なまちにするために必要な取り組み（自由意見を抜粋）

団体だけでなく行政との連携による取り組みを望む意見が多く、市はそれぞれの地域の特徴を生かす活動のサポートを行うべきという意見が本設問以外でも挙げられていました。

- ・ 中津川市はそれぞれの地域がとても特徴的です。
- ・ 平等、公平を意識しながらも、差別化を使い分けて個性を活かす活動をサポートし、各地区が切磋琢磨して中津川市全体を盛り上げていけるようにしていただきたい。

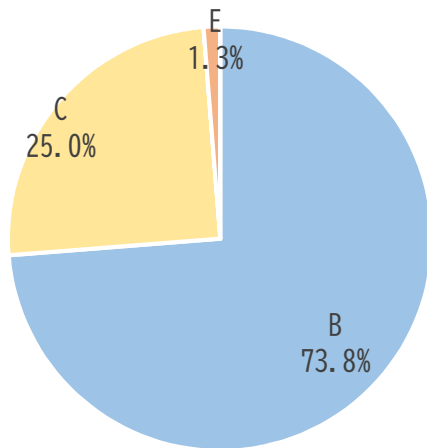
- ・ 地域共生社会の実現のため「重層的支援体制整備事業」の取り組み（地域の福祉サービスを一体的に提供し、住民の生活を総合的に支援する取り組み）が必要であると考えます。

3-2 前計画の評価・検証

前計画で実施した事業の改善や見直しなどを本計画策定につなげるため、前計画の進捗状況の把握と評価・検証を行い、課題を抽出しました。

検証の概要	
対象	中津川市総合計画（2015-2026）に定める 36 施策に基づく取り組み
評価数	80 件

◆全体の進捗評価割合



- A：施策が計画以上に進捗し、期待以上の成果を得た
- B：施策が概ね順調に進捗し、ほぼ期待した成果を得た
- C：施策の進捗が遅れ気味で、期待したほどの成果も得られなかった
- D：施策の進捗が遅れており、成果もあまり得られていない
- E：施策が進捗しておらず、成果はない

【展望】

多くの施策については進捗が順調であり、ほぼ期待通りの成果が得られていますが、進捗・成果が期待通りでない施策も一定数あったため、施策の方向性を検討し、取り組みの強化や見直しに努める必要があります。

また、その時点において求められるものが絶えず変化し続けていることにも配慮する必要があります。

今後の方向性として、目指すビジョンを明確に共有し、進捗が期待通りでない施策は見直しに努め、期待通りである施策も強化して継続的に取り組むとともに、新たな分野の施策についても積極的に取り組みます。

特に、周知不足などにより認知度の低い取り組みについての対応を強化する必要があります。

第4章 課題の整理

社会情勢や本市の現状、市民意向調査や前計画の評価・検証などから、総合的に課題を整理しました。

子育て・教育	特徴	・「子育てのまち」がまちの将来イメージとして捉えられている
	課題	・人口減少の度合いが全国平均、岐阜県平均よりも高く、人口減少への対応が必要 ・子育て支援の強化が求められている
健康・福祉	特徴	・「健康・福祉のまち」がまちの将来イメージとして捉えられている
	課題	・地域医療の充実が重要視されている ・担い手不足への対応や、さまざまな分野への幅広い支援が求められている
共生・協働・定住	特徴	・本市に住んでよかった理由の上位に人のやさしさ、温かさ、親切さが入る ・市内には13地区あるが、それぞれに地域性が色濃くある
	課題	・少子高齢化などにより地域の活力が低下している ・若者の移住・定住の取り組みが必要とされている
生涯学習・文化・スポーツ	特徴	・歴史文化の豊かさや伝統芸能などの歴史・文化資源が強みとして認識されている
	課題	・学んだ成果の活用場が求められている ・市内には多くの魅力があるものの、それを生かし切れていない ・人材の育成が求められている
防災・防犯	特徴	・治安の良さや自然災害の少なさが強みとして認識されている ・防災・減災対策の充実が重要度の高い施策として認識されている
	課題	・市民の防災意識の向上とインフラの耐震化などが求められている。

環境	特徴	・ 将来像として「自然」に言及するキーワードが多い ・ 森林・清流などの自然資源が強みとして認識されている
	課題	・ 自然環境保全の担い手不足と高齢化が進行している ・ 下水、ごみ処理施設などの老朽化が進行している
商工観光	特徴	・ 広域交通網が発達しており交通アクセスに恵まれている ・ 大規模な製造業が集積している ・ 観光資源が多い
	課題	・ 商業施設や遊ぶ場所が不足しており、若者に不満が多い ・ リニアを生かした若者の雇用機会の確保が求められている ・ 観光の効果を地域全体に波及させる取り組みが必要とされている
農林畜産	特徴	・ 夏秋トマト、栗、飛騨牛などの特産物がある ・ 森林資源が豊富であると認識されている
	課題	・ 人材不足が深刻であり、担い手の育成が必要である
基盤整備	特徴	・ リニア中央新幹線整備による市の発展のポテンシャルが強みとして捉えられている
	課題	・ 道路網などのインフラの老朽化が進行している ・ 公共交通の重点的な改善が求められている
行政	特徴	・ 現行総合計画の施策の実施状況は「概ね順調」である
	課題	・ 新規分野への取り組みが停滞しており、市が目指すビジョンが伝わっていない ・ 取り組みへの認知度が低く、周知不足である

第5章 目指すべき将来都市像

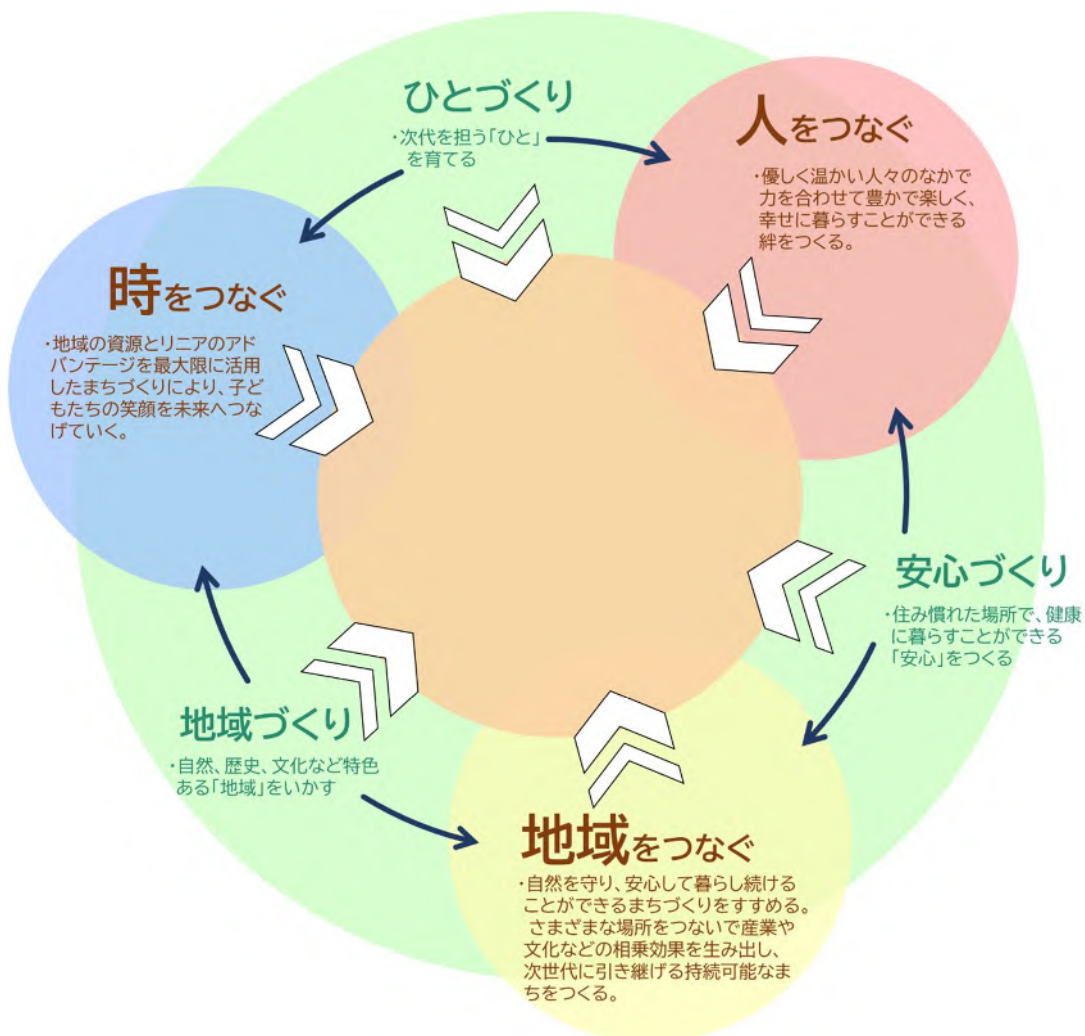
5-1 まちづくりの方向性と将来都市像

中津川市が魅力あるまちとして持続的に発展していくためには、住民、事業者、行政など中津川市に関わる人々が同じ方向を向いて、それぞれの責任と役割を担い、相互に連携していく必要があります。

中津川市のまちづくりの方向性は「ひとづくり」、「地域づくり」、「安心づくり」をすすめ、「地域・時・人」をつなぐことで、人々の笑顔や、未来への希望をつくりだすこととします。

まちづくりの方向性に基づき、中津川市の将来都市像を次のとおりとします。

将来都市像



まちづくりの方向性と将来都市像のイメージ図

5-2 人口の将来展望

本市の将来の人口の展望を示します。

将来の合計特殊出生率は社人研の推計と比較して、岐阜県が2023年3月に策定した「岐阜県人口ビジョン」と同じ数値を採用し、以下の表のとおりとします。

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
社人研推計	1.38	1.42	1.46	1.46	1.47	1.47
市独自推計	1.61	1.80	1.94	2.07	2.07	2.07

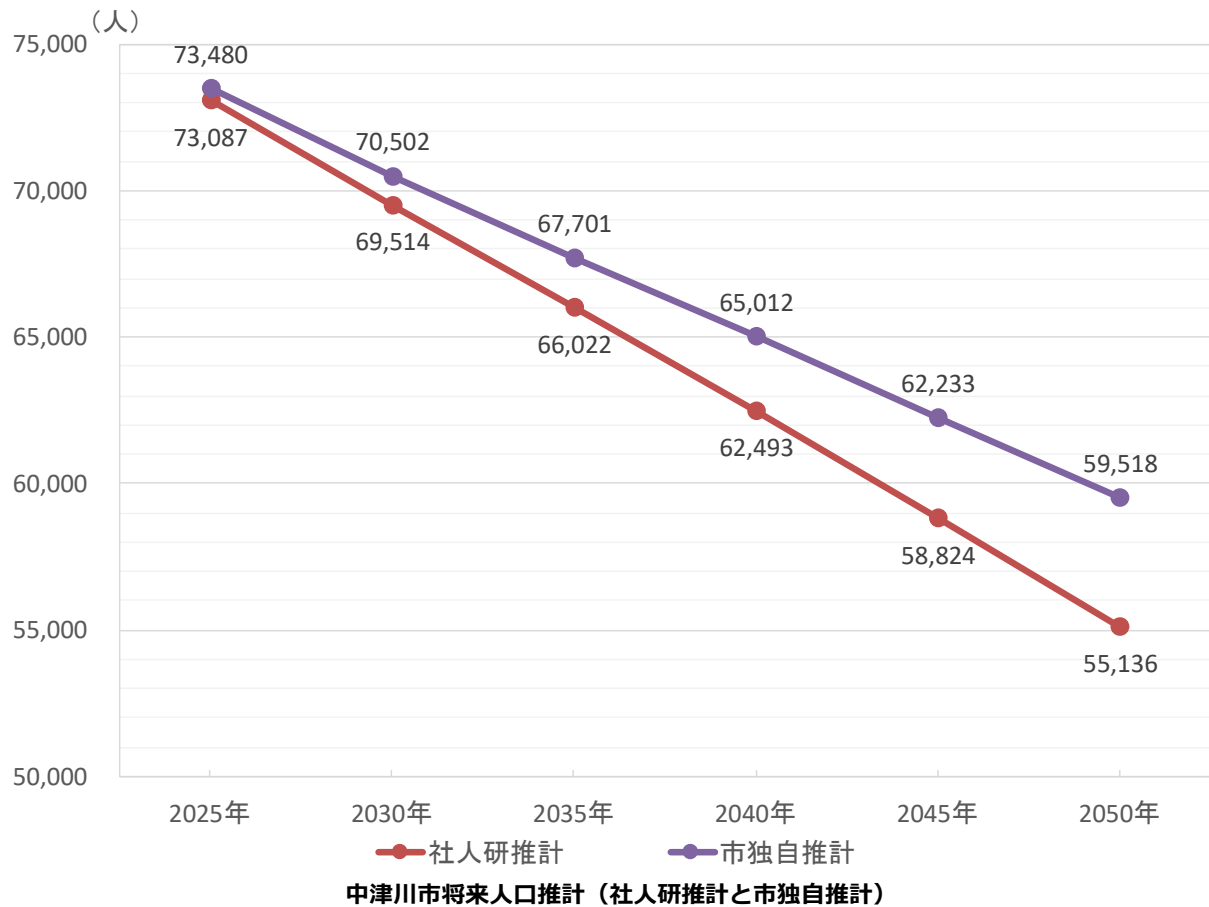
合計特殊出生率の設定値の比較

人口の移動率は社人研の推計と比較して、以下の表のとおりとします。

移動率の設定概要	
社人研推計	2015年から2020年の転出と転入による人口移動の実績値を踏まえて推計
市独自推計	2035年までは社人研による想定値を基に転出人口を2%減少、転入人口を2%増加して推計 2040年以降は、リニア中央新幹線の開業を見据え社会増減を均衡して推計

移動率の設定値の比較

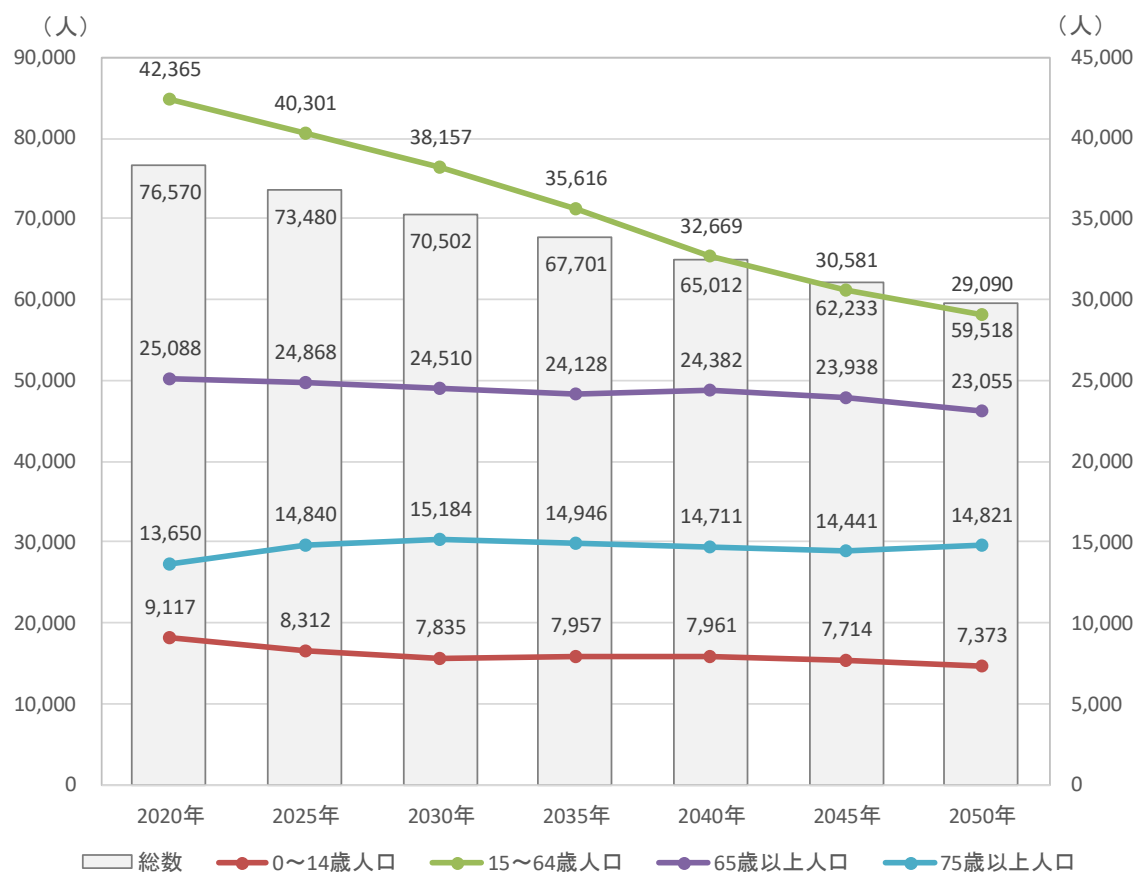
本市の将来の人口は社人研の推計と比較して、以下の表のとおりとします。



本計画の目標年度である 2036 年度の総人口は、2035 年と 2040 年の推計値を踏まえて、社人研の推計より 1,847 人増加させた 67,163 人を目指します。

2036 年度の目標将来人口:67,163 人

以下に、市独自推計による年齢 3 区分別の将来推計人口を示します。



年齢 3 区分別の将来推計人口(市独自推計)

現在の人口構成や社会状況を鑑みると、現在の人口規模を維持することは極めて難しいと考えられますが、長期的な人口の展望の点から、将来に渡って本市が持続可能となるかは、総合計画に沿っていかに取り組みを進めていくにかかっています。

この市独自推計を実現化するには、市内への定住・移住を推進し、出生率を上昇させる必要があります。そのためには、市民の生活に希望がなければなりません。

市民一人ひとりが未来の生活を考えた際に、自身が幸福になれるという期待があることで、中津川市に住もう、ずっと中津川市で暮らそうという意思が生まれます。市民一人ひとりに希望や期待を抱かせ、それを叶えるまちづくりを進める為に、将来都市像である「」を目指して中津川市は取り組んでいきます。

第6章 政策

6-1 分野ごとの政策

将来都市像実現に向け、政策を次のように設定します。

分野	政策
子育て・教育	心身共にたくましい子を育てるまちづくり
健康・福祉	住み慣れた地域で、自分らしく健やかに 安心して暮らせるまちづくり
共生・協働・定住	さまざまな人々が尊重し合い、共に活躍できるまちづくり
生涯学習・文化 ・スポーツ	人々が学びや活動を通して、 いきいきと暮らすことができるまちづくり
防災・防犯	支えあい、安心・安全に暮らせるまちづくり
環境	恵まれた自然を守り、生かすまちづくり
商工観光	商工業や観光業などが活発で、 活気があるまちづくり
農林畜産	恵まれた資源を活用し、 さまざまな産業が活発なまちづくり
基盤整備	計画的に整備されたまちの中で、 快適に暮らせるまちづくり
行政運営	持続可能で安定した行政サービスが 受けられるまちづくり

6-2 政策の方向性

政策

1

心身共にたくましい子を育てるまちづくり

【分野】子育て・教育

市民の希望をかなえ、豊かな自然のなかで、健全でたくましい子どもを地域全体で育てます。地元への愛着をもつ心身共にたくましく子を育てることで、次の世代、またその次の世代へと引き継がれるまちをつくります。

市民の希望を叶える【子育て】

- ・ 市民一人ひとりが結婚や出産、子育てに対して希望を持ち、その希望が叶うまちを実現します。
- ・ 子育て世代が安心して子どもを産み育てられるよう、子育て支援の強化、子どもの居場所づくり、交流の場の積極的な整備を進めます。
- ・ 地域や地元企業など様々な人と協働し、地域資源の活用を通じて、子どもたちが地元への愛着を育み、未来を担う人材として成長できる環境を整えます。

たくましい子を育てる【教育】

- ・ 児童・生徒が安心して、安全に楽しく生活・学習できる環境を整備します。
- ・ 確かな学力とたくましい体、豊かな心、集団の中でたくましく生きていく力を持つ子どもを育てます。
- ・ 安心して通学・通園できる環境の整備や、安全・安心・快適な幼児教育、保育環境の整備を行い、地域全体で子どもたちの成長を守る体制を築きます。

安定的に医療、介護、保険制度を維持し、人々が共に支え合うことができる持続可能な健康・福祉の基盤を確立し、豊かな心で健康的に、安心して幸せに暮らすまちをつくります。

健やかに暮らせる【健康】

- ・健康寿命の延伸に向けて、健康意識の向上や予防医療を推進するとともに、日常的な運動習慣の定着を促進します。
- ・安心して医療が受けられるように、人材の確保などに取り組むことで地域医療を安定して供給できる環境と、誰もが円滑に医療を利用することができる環境の整備を進めます。

安心して暮らせる【福祉】

- ・子どもや障がいのある人など、すべての人が環境に左右されることなく健全に成長し、平等に社会参加することで、生きがいを持って生活できる支援体制と環境を整備します。
- ・高齢者が自立して生活し、安心して便利に介護を利用できる環境を整備することで、尊厳を持って暮らすことができる地域づくりを促進します。
- ・支え合いや助け合いの仕組みを地域社会全体で強化し、共助の精神に基づくまちの絆を育みます。
- ・多様化し、複雑化していく課題に対して包括的な支援を行き届かせることで、住民すべてが自立し、健康で安心して暮らせる社会を目指します。

さまざまな人々が尊重し合い、共に活躍できるまちづくり

【分野】共生・協働・定住

多様性を尊重し、多様性を力にします。市民一人ひとりが自分らしく暮らし、学び、地域への愛着を育みながら、行政、市民、企業や地域団体、学生などが連携し、協働の力による活気あるまちづくりが自立して行われることを目指します。市民の幸福度を向上させるとともに、自然と文化、調和の中で住み続けたいまちをつくれます。

共に認め合う【共生】

- ・国籍や年齢、性別などさまざまな背景を持つ人々が互いに尊重し、支え合い、受け入れ合い、自分らしく活躍できる共生社会づくりを進めます。
- ・男女共同参画社会や多文化共生の理解を深めるための教育や活動を通じて、多様性を力とする持続可能な地域社会づくりを進めます。

国際感覚を根付かせる【グローバル】

- ・国際理解と交流を促進し、地域在住の外国人や海外からの観光客との交流を深め、相互理解を助ける取り組みを進めます。
- ・市民がグローバルな視点を身につける機会を提供し、国際感覚豊かな次世代の育成と地域の国際化を推進します。

尊厳を守る【人権】

- ・子どもや高齢者、障がい者など、あらゆる人が人権の主体として尊重され、また、他者を尊重できるように、学校や地域をはじめとした多様な場で人権についての学びの機会を充実させ、誰もが安心して生活できる地域社会を築きます。
- ・市民一人ひとりが互いを思いやり、不当な差別や偏見をなくす取り組みに積極的に参加できる環境を整えます。

共に地域をつくる【協働】

- ・市民活動やコミュニティ活動を支援するための情報提供や活動基盤の整備を進め、市民が主体的に地域課題の解決に取り組む土壌を育てます。
- ・若い世代の地域との交流を推進し、地域の文化や歴史などを通じて誇りや愛着を醸成することで、定住やふるさと回帰を推進します。

中津川に住もう【移住・定住】

- ・中津川市の自然、文化、教育、福祉などの地域資源を活用し、市に移住を希望する人々を積極的に受け入れる仕組みを整えます。
- ・移住者と地域住民が調和しながら共に歩む地域づくりを支援します。
- ・働きやすさ、住みやすさの向上を図り、若い世代や移住者が活力ある新しい生活を始められる環境を整備します。

人々が学びや活動を通していきいきと暮らすことが できるまちづくり

【分野】生涯学習・文化・スポーツ

市民が生涯にわたり自由に学び、文化・芸術を創造・享受し、スポーツを楽しみ、その成果を自由に発揮することで、生きがいと活気のある地域社会を形成し、市民が暮らしの中で生きがいを感じられるまちをつくりまします。

学びを楽しみ、いかす【生涯学習】

- ・市民が生涯にわたって主体的に学ぶことができる環境を整えることで、生き生きと自由に学びを続けられる環境を整えます。
- ・市民が新たな知識やスキルを習得できる機会を整え、学び直しを支援するとともに、学んだ成果を生かす機会を創出することで、知識の習得やスキル向上を個人の成長だけでなく地域の成長に繋がめます。
- ・幼いころから本への興味を育み、読書習慣の定着、促進を図ることで、幅広い世代が生涯にわたり学びの喜びを実感し、さらに深めていくことができる環境を提供します。

歴史、伝統を守り、いかす【文化】

- ・地域の歴史的資源や文化的価値を適切に保全し、地域の歴史や文化に親しむ環境を整えることで郷土愛を育み、地域への誇りを抱かせ、次の世代に継承します。
- ・伝統芸能や地域文化が持続可能な体制を確立し、継続した活動が維持できるよう支援するとともに、その魅力を発信することで資源としての活用促進を図ります。
- ・幼いころから優れた文化や芸術に触れることができる機会と環境を整えることで、豊かな心を育みます。
- ・地域の文化を共有・発展させる基盤を築き、市民が積極的に文化的活動に参加できる環境を形成します。

こころと体を育む【スポーツ】

- ・ スポーツ活動の推進を通じて、市民の健康を増進し、生きがいをつくりだすとともに、スポーツを通じた人と人とのつながりを促進し、地域コミュニティの一体感を醸成します。
- ・ 幼いころからスポーツに親しむ環境を整えることで、子どもたちの自信と誇り、豊かな心を育みます。

災害に強い基盤の整備や人と人との支え合うことができる環境をつくりだすことで、激甚化する災害、事故や犯罪などの予測ができない危険から市民を守り、安全に安心して暮らせるまちをつくりま

す。

市民を守る【防災・減災】

- ・ 市民一人ひとりに高い防災意識を醸成し、事前防災と自助・共助の重要性の理解を深めることで、地域全体で命を守る体制を構築します。
- ・ 防災に関する適切な情報が伝わる環境と、緊急時にも迅速かつ安全に避難できるインフラを整備します。
- ・ 道路・橋りょう、河川、水路などの整備及び適正な維持管理を行うとともに、住宅等の耐震化や森林、農地の適正な管理を推進することで防災・減災力を高め、安全な住環境を整えます。

安心して生活できる【消防・救急】

- ・ 災害時に迅速に対応するための専門設備や災害被害を最小限に抑える設備を整備するなど、市民の命を守る確固たる基盤を築き上げます。
- ・ 防災に携わる人材の確保に努めるとともに、消防および救急体制の充実に努めることで、地域全体の安全を守ります。

安全・快適に暮らせる【交通安全・防犯】

- ・ 行政と住民、地域企業等が協力し合い、地域全体で交通安全・防犯活動に取り組むことで、持続的に安心して暮らせる環境を整えます。

住民、企業、行政が一体となり、未来へとつながる取り組みを推進します。自然環境と生活環境を守ることで、将来に渡って持続可能な社会を築き、市民が安心して快適に暮らせるまちをつくりま

みんなで守る【自然環境】

- ・地域の豊かな自然の重要性を市民全員が共有することで、次世代へ継承し、持続可能な形で保全します。
- ・環境を保全する意識の高い市民を市全体で育てることで、地域の生態系を尊重し、自然との共生を実現します。

一体となって目指す【脱炭素】

- ・2050年のゼロカーボンシティの実現を目指し、再生可能エネルギーや新エネルギーの導入を積極的に推進します。
- ・地域のエネルギー供給の多様性を確保し、二酸化炭素排出の削減を図るとともに、環境に優しい持続可能な社会の実現を目指します。

快適な生活を守る【生活環境】

- ・廃棄物の適正な管理、収集、運搬を効率的に実施し、適切なおみ処理や、し尿の処理により、地域の衛生的な環境を保ちます。
- ・循環型社会の形成に向けたリサイクル推進とごみの減量化を市民と協働して徹底することで、衛生的で持続可能な環境を整え、次世代に引き継ぎます。
- ・斎場や墓地の適切な管理と整備を行うなど、多様化する市民ニーズに適正に対応できる環境を整えることで、地域社会における快適な生活を守ります。

商工業や観光業などが活発で、市内に活気があるまちづくり

【分野】商工観光

商業、工業、観光などの発展を支援するとともに、地域の資源や特性を最大限に活用し、企業や地域社会との協力を通じて雇用や経済の安定と拡大を図ります。市民が地域に誇りを持ち、持続可能で活力に満ちたまちをつくります。

活気あふれる【商業】

- ・地域の文化や中山道の歴史的な風情などを活用して、市内外からの人の流れを創出し、市内全域の商業活動を活性化します。
- ・地域産品の販路拡大や消費者との新たなつながりを生み出す取り組み、担い手の確保などを支援することで、持続可能な商業活動を実現します。
- ・市の玄関口として、駅前の機能を強化し、まちなかを買い物や飲食、宿泊、新しい挑戦や交流を楽しめる空間として活用することで中心市街地の魅力向上を図ります。

継続して発展する【工業】

- ・地域資源を活用した製品開発や生産性向上を図るとともに、デジタル技術の導入による既存企業の発展を促進します。
- ・起業支援を含む新規事業創出や若い世代の参入を促し、地域産業の基盤のさらなる強化を目指します。
- ・産業基盤の整備への支援などを通じて、安定した事業経営と持続的な成長による工業の活性化を図ります。

人も企業も力を発揮できる【雇用】

- ・年齢、国籍、性別を問わず、誰もがその能力を発揮し、活躍できる雇用環境を目指します。
- ・労働環境の改善や多様な働き方への対応を進め、職場における働きやすさを向上させることで、生活の安定、安心と働く意欲がもてる環境を整えます。

活力を生み出す【誘致】

- ・成長性のある企業の誘致を推進し、市内経済の基盤を強化するとともに、新たに挑戦を行う企業や人を支援することで、若者や都市部の人材が求める業種の進出を促します。
- ・交通インフラや地の利を強みに広域的な視点で企業活動に適した環境を整え、雇用創出や地域産業との連携を推進します。

活気を呼び込む【観光】

- ・自然、歴史、文化、食などの地域の魅力に加え、リニア中央新幹線を新たな魅力として活用することで、持続可能な観光産業の発展に取り組みます。
- ・リニア中央新幹線のアドバンテージを最大限に活用できる交通インフラを整備し、観光施設間のアクセス向上と観光需要の拡大を図ります。
- ・市の魅力を国際的に発信し、インバウンド観光を活性化するとともに、その受入れの体制を整備します。
- ・観光の産業としての発展を支援し、地域住民と観光が調和する持続可能な観光の実現を目指します。

恵まれた資源を活用し、さまざまな産業が活発なまちづくり

【分野】農林畜産

地域資源を最大限に活用し、持続可能かつ多様性に富む産業と暮らしを支えます。産業分野の広がり連携を深めることで、次世代に誇れるまちづくりを実現します。市民一人ひとりが安定した生活と将来への希望を持ち、誇りをもって生活できるまちをつくります。

守り続ける【農業】

- ・農地の集積化、担い手の育成、遊休農地の削減などに取り組むとともに、6次産業化、ブランド化、特色ある農業の活性化により付加価値を向上させ、農業収入の安定化を図ります。
- ・農地の適切な保全、農業施設の維持管理、鳥獣害対策の強化、担い手の確保に取り組み、農地と生態系を持続可能な形で保つことにより、農地の持つ多面的機能を守ります。

新たな価値を広げる【林業】

- ・豊かな森林資源を活用した林業の活性化を目指して、林業従事者を育成するとともに、林業施設を適切に維持管理することで計画的に森林整備を進め、持続可能な林業につなげます。
- ・木材利用の拡大や安定供給体制の強化により、木材関連産業の成長を支援します。
- ・森林資源の多面的機能を最大限に活用することで、環境保全と経済活動の両立に向けて、多角的な取り組みを実施します。

安定して広がる【畜産業】

- ・後継者の育成や自給飼料の活用、地域農業との連携などにより安定した経営基盤の構築を推進し、持続可能な畜産生産体制を確立します。
- ・地域の畜産物のブランド価値を高め、稼ぐ力を向上させるとともに、需要拡大を図ります。

未来につなぐ【地場産業】

- ・市内で生産される木材や農畜産物、工芸品や食品などのさまざまな地場産品の高付加価値化やブランド化を進め、稼ぐ力を高めることで未来につなぎます。
- ・後継者の育成・確保により将来に渡って地場産業を持続させることで、地域全体の資源と活力を守ります。

計画的に整備されたまちの中、快適に暮らせるまちづくり

【分野】基盤整備

さまざまな取り組みを通じて計画的に基盤整備を進めることで、快適で安定した生活を実現するとともに、新たな取り組みにより未来への期待を創出することで、活力ある地域社会を生み出し、快適に暮らせるまちをつくります。

利便性の高い【交通】

- ・道路や橋りょうの整備・維持管理を適正に行い、地域内外をスムーズに結ぶ交通インフラの充実により地域経済の活性化を図ります。
- ・市内の交通の利便性を高め、安全で安心な交通インフラを整えることで、通勤や通学の時間短縮、医療機関や商業施設へのアクセスを向上させ、市民の日常生活の質を向上させます。

安心して使える【上下水】

- ・上下水道の整備、適切な維持管理を行い、地域の水環境を守ることで、持続可能で衛生的かつ快適な暮らしを支えます。
- ・健全で効率的な上下水道事業の経営により、将来に渡って安定した水道水供給と污水处理を実現します。

賑わいを生み出す【リニア】

- ・リニア中央新幹線の開業を契機に、リニア駅周辺の発展を促進し、広域交通の結節点としての機能を強化します。
- ・「岐阜らしさ」「中津川らしさ」が感じられるエリアとすると共に、リニア駅周辺の賑わいを創出し、賑わいと住環境との調和のとれた魅力的なエリアとすることを目指します。
- ・多くの工事が集中する工事期間中において、安心・安全な市民生活を確保します。

快適に生活できる【都市計画】

- ・良好な街並みと景観を整備し、官民で連携して地域の歴史と文化などの特性に応じた活気のあるまちづくりを行います。
- ・開発と保全の調和した秩序ある土地利用を実施することで、将来に渡って持続可能な規模のまちを形成します。
- ・市民が安らげる公園や緑地を適切に管理、整備するとともに、居住環境の整備や空き家対策を促進し、市民、若者、移住者が住みたくなる環境を整えます。

快適に繋がる【公共交通】

- ・公共交通の整備と充実を図り、人材の確保なども含めた持続可能な環境を実現することで、すべての人が利用しやすい交通網を構築し、快適に住み続けられる環境を整備します。
- ・広域交通網と市内の交通網及び、地域内の拠点を繋げることで、市内外の交流と往来を活発にします。

持続可能で安定した行政サービスが受けられるまちづくり

【分野】行政運営

行政運営の透明性、公平性、効率性を高め、適切に行政としての責任を果たすことで、市民が将来に渡って安心して快適に暮らすことができるまちをつくります。

聴き、届ける【広報・広聴】

- ・市民が知りたい情報、行政が市民に伝えたい情報をわかりやすくタイムリーに提供します。
- ・市民参加型の行政運営を推進し、市民の声を施策に反映するための体制を整え、自らの声が地域づくりに生かされていることを市民が実感できる環境を整えます。
- ・市内外に中津川市の魅力を発信し、市政への関心を高め、市への愛着を醸成します。

希望に応える【行政運営】

- ・公共施設を適正な規模で計画的に配置し維持管理することで、市民が安心して便利に利用できる環境を整えます。
- ・広域的な連携による公共サービスや施設整備を進め、効率的、効果的な行政運営を目指します。
- ・DXの推進により行政サービスの質を向上させ、多様化する市民ニーズに迅速かつ適切に対応します。
- ・自ら施策や事業を見直し、絶えず改善を行うことで、真に市民が求める行政サービスを提供します。

安定して持続させる【財政運営】

- ・市民に安定した行政サービスを行うため、自主財源の確保に努めるとともに、国・県等の補助金の積極的な活用などにより、効率的・効果的な財政運営を継続します。

第7章 土地利用構想

7-1 基本的な考え方

持続可能なまちを形成するために、土地利用の面では開発と保全が調和した秩序ある土地利用に加え、人口減少を見据えた土地利用を進める必要があります。

開発と保全が調和した秩序ある土地利用では、豊かな自然環境や里山景観、歴史的文化遺産など将来にわたって守るべき財産を守りつつ、安全性や利便性、快適性など暮らしやすさに繋がる基盤の整備を関係法令との整合を保ちながら進める必要があります。

また、人口減少を見据えた土地利用として、市全体では持続可能な規模の都市構造とする観点からインフラの整備や維持、拠点間ネットワークの構築を行いつつ、市内各地域では都市拠点・広域交通拠点・地域拠点など地域特性に応じた拠点形成に取り組み、拠点ごとの魅力向上や地域コミュニティの活性化を進める必要があります。

7-2 土地利用の方針

(1) 全体方針

市町村合併により行政区域が拡大した本市では、市域全域に広く薄く居住が分布し、地域ごとに生活拠点が形成されています。このため、ＪＲ中津川駅を核とする都市拠点を中心としつつ、各地域拠点においても拠点単位でまとまりのある生活圏を形成し、公共交通によって各地域拠点が有機的に結ばれたコンパクトなまちづくりを進めていく必要があります。

(2) 都市拠点

本市における人口集中地区を含む中津地区は、市全体にとっての都市的生活の拠点として、本市の顔となるまちづくりを目指します。そのため、都市機能誘導区域への商業・金融・文化等の都市機能の立地誘導や、居住誘導区域への緩やかな居住の誘導を図ります。

(3) 広域交通拠点

リニア岐阜県駅が設置され、それに伴う区画整理事業をはじめとするリニア関連事業が進められている坂本地区は、現在市内でも人口が微増している地域であり、リニア開業を見据え周辺の土地需要の更なる高まりも予想されることから、岐阜県の東の玄関口となる広域交通拠点として、開発と保全が調和した秩序ある土地利用を推進します。

（４）地域拠点

都市拠点・広域交通拠点以外の市内各地域でも、人口減少を見据え、地域の核（コア）となる生活圏を形成する必要があります。そのために、各地域の総合事務所等の行政施設や医療・福祉施設、商業施設等の生活利便施設周辺に緩やかな居住等の集積を図ります。

（５）集落・農業エリア

農地等の保全と既存集落等の住環境の維持・形成を図るエリアを「集落・農業エリア」と位置付けます。優れた農業地域や農業生産基盤の維持・保全を図るとともに、保水機能等の農地の持つ多面的機能の維持に努めます。

（６）森林エリア

地域森林計画対象民有林に指定されている地域で、自然環境・景観を維持・保全するエリアを「森林エリア」と位置付けます。

自然環境や景観を阻害するような林地開発を抑制し、緑豊かな森林の保全に努めるとともに、林業基盤の整備、自然景観地としての利用推進を図ります。また、土砂災害のおそれのある区域では、開発を抑制し、防災機能の保全に努めます。